

3-1

自分流ヒストリーの探求

Life Review

ラポールの構築

個別性の重視

特別養護老人ホーム 成蹊園

ユニットリーダー 小山 美和

東京都青梅市今井1丁目521番地の1

TEL: 0428-32-7220

E-mail: tourisei@ch.mbn.or.jp

FAX: 0428-32-7230

URL:

今回の発表の施設
またはサービスの
概要

当施設は山紫水明の地、青梅市の北東部、圏央道青梅ICから10分程に位置し、美しい緑の森と近くには霞川も流れ、ゆるやかな南傾斜地という、恵まれた環境にある施設で、一部ユニット型で、現在160名の利用者の方が生活されております。

〈取り組んだ課題〉

- ・介護はコミュニケーションを基盤に成り立つ行為
一人ひとりが望む介護を提供することが求められている。まず介護を一人ひとりが望むように提供するために、利用者が望むことを理解する。
- ・社会や生活との接点を生み出す
記憶を刺激することで、生活の中のさまざまな出来事が蘇るはず。家業の手伝いをしたこと、友達との遊び、学校の思い出、仕事を通しての同僚との思い出、認知症高齢者が失いつつある生活や社会との接点を生み出す。
- ・「なじみ」の関係づくり
『傾聴』により、「この職員は私の話を聞いてくれる」というラポールの構築を図る。普段身体的な介護中心のケアをしている場合でも、認知症高齢者の回想に耳を傾けることで、今まで気がつかない新たな一面に気づくこともできる。

〈具体的な取り組み〉

- ・バックグラウンドが見えそうな方、例えば「おかみさん」と呼ばれることに反応が敏感で笑顔が見られた方、逆にまったくバックグラウンドが見えない方。
- ・本人の話を傾聴することはもちろんであるが、家族からも話と写真等の情報を頂く。
- ・担当した職員が写真などを用いながら文章化し、編集委員会が冊子にまとめる。
- ・冊子を利用者、家族に差し上げる。

〈活動の成果と評価〉

コミュニケーションをとる時に「相手に関心をもつこと」が大切である。その方のことを知りたいと思うことが基になって、相手が伝えようとしていることを言語や表情、しぐさを通して受け止めていき、そして相手のことをより深く理解していくことができる。
高齢者は自分自身の人生を振り返り、それによって楽しいひとときを得る。このひとときを共にすることにより、職員は、一人ひとりの歩んできた人生を知ることができる。その生活歴から個別ケアを実践するための様々な情報を得ることができた。一人ひとりの高齢者がその人らしく生きていくため、その人らしい一生を終えるために、大切な役割を果たしたといえる。

〈今後の課題〉

職員のコミュニケーションスキルを高める意味でも、スキルアップのためのツールの一つにしていく。
「今をどう生きたいか」を断片的に聴くよりも、「どう生きてこられたのか」をふまえた上で、「今、そしてこれからをどう生きたいか」をお聴きする。
人生史をお聴きする中で、自然とその方とのラポールが構築され、その方の「個別性を尊重した介護」を提供する。

〈参考資料など〉

- ・「自分流ヒストリー（Life Review）成蹊園」（非売品）
- ・「ライフレビューブック」（弘文堂）
- ・「写真で見せる回想法」（弘文堂）

【メモ欄】